

消防隊員によるターニケットを含む止血帯による圧迫止血について

1 背景・目的

本市では、2019年にラグビーワールドカップや女子ハンドボール世界選手権など大規模な国際大会の開催を控え、テロ災害等への対処について体制の整備、救急隊員等への教育が課題となっている。特に爆発物による四肢の外傷では大量出血が考えられ、止血効果が高いとされるターニケットを用いた止血法の教育は重要である。

そのため、本市では、平成29年に消防庁より策定された消防職員への教育カリキュラム（別添資料2-2）及びテキスト（別添資料2-3）を基に指導救命士が中心となり職員への教育を行い、テロ災害等への対応力の強化を図りたい。

2 スケジュール

2019

3月

・ターニケット導入 各隊（救急隊、ポンプ隊、救助隊）5個

4月

・指導救命士の教育

・各消防署での消防職員への教育

9月

10月

ラグビーワールドカップ
10/6・10/13 運動公園陸上競技場

11月

女子ハンドボール世界選手権大会
11/30～12/15 パークドーム、アクアドーム、県立総合体育館

3 その他

(1) 医師法第17条の解釈について

非医療従事者である消防職員（救急隊員を除く）が多数傷病者が発生している場面で、医療従事者による速やかな対応が得られない状況下では、ターニケットを含む止血帯を使用しての止血は、次の2つの条件を満たせば医師法違反とはならない。

- ① 傷病者の状態その他の条件から応急処置を施さなければ生命の危険がある場合。
- ② 使用者が以下の内容を含む講習を受けていること。
 - ・出血に関連する解剖、生理及び病態生理について
 - ・止血法の種類と止血の理論について
 - ・ターニケットの使用方法及び起こりうる合併症について

（平成30年2月28日 医政医発0228第6号 厚生労働省医政局医事課長）

- (2) 消防隊員（救急隊員を除く）が行った止血の実施状況は必要に応じてMC協議会において事後検証を行う。